

2021年FIA-F4選手権シリーズ第6大会 参戦報告書

HFDP 阿部 正和

2021年FIA-F4選手権シリーズ

HFDP参加選手レポート

第6大会（第13戦／第14戦） 参戦レポート

11月27日（土）～28日（日）、富士スピードウェイ（静岡県）で2021年FIA-F4選手権シリーズ第6大会（第13戦、第14戦）が今シーズンの最終大会として開催されました。HFDP (Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5 小出峻（1999年10月26日生まれ、22歳）、#6 木村偉織（1999年6月22日、22歳）、#7 太田格之進（1999年6月18日生まれ、22歳）の3人が参戦しました。

木村、シリーズを表彰台で締めくくる
■公式予選（30分間）：天候/晴れ 路面/ドライ


11月27日土曜、午前8時15分から30分間の公式予選が行われました。富士スピードウェイは快晴ながら気温、路温ともに低いコンディションとなりました。セッション開始後10分、逆転王座を目指す#6 木村が1分46秒483でトップに浮上しました。しかしその後はライバル選手が続々とこのタイムを更新していきました。セッション折り返しの段階で#5 小出が1分45秒795を記録して首位に躍り出ると、#6 木村が1分45秒923で続き、直後に#7 太田が1分45秒637で#5 小出を逆転してトッ

プに立ちました。この時点でHFDP勢はトップ3を独占することになりました。

しかしセッション後半になるとライバル勢がタイムを縮め始めて上位に進出、これに対抗してHFDP勢はタイムを少しずつ更新するもののライバル勢の伸びには届かず、結局#6 木村が5番手、#7 太田が8番手、#5 小出が9番手でセッションを終え、第13戦のスターティンググリッドが決まりました。また、タイムアタックのセカンドタイム順で決まる第14戦のスターティンググリッドは#6 木村が4番手、#7 太田が5番手、#5 小出が8番手となりました。


第13戦公式予選結果

予選5位	#6木村 偉織	1分45秒443
予選8位	#7太田 格之進	1分45秒498
予選9位	#5小出 峻	1分45秒515

第14戦公式予選結果（公式予選のセカンドタイム順にて決定）

予選4位	#6木村 偉織	1分45秒451
予選5位	#7太田 格之進	1分45秒498
予選8位	#5小出 峻	1分45秒591

■第13戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ



土曜日午後1時15分から第13戦決勝が行われ、34台のマシンが出走しました。午後1時15分、フォーメーションラップの後切られたスタートでは、スターティンググリッド4番手の選手が加速に失敗、#6 木村が4番手に上がって1コーナーへ進入しました。また、9番手からスタートした#5 小出は好スタートを切って木村に続く5番手で第1コーナーを抜けました。一方、その背後の集団の中にいた#7 太田は、1コーナーに進入した際、内側側面から接触を受け押し出される形で外側の車両とも接触、車両を損傷したためスローダウンして100Rまで進みましたが、そこで停止しレースを終えました。

#6 木村はオープニングラップ、コーナーごとに3番手の選手に攻めかかりましたが届かず、#5 小出は2周目のメインストレートで後方の選手にスリップストリームを許し2周目の1コーナーから2コーナーでポジションを1つ下げ6番手へ後退しました。

その後#6 木村は3番手の選手と1秒以内の間隔を守ってオーバーテイクの隙を狙いますが結局届かず、4番手のまま14周を走りきってチェッカーフラッグを受けました。#6 木村はこのレースの優勝選手が記録したファステストラップに次ぐベストタイムを最終ラップで記録しました。このレースで#6 木村はシリーズポイント12点を獲得、ぎりぎりではあるもののシリーズチャンピオンの可能性を残して最終戦を迎えることとなりました。#5 小出は7周目に後続選手のオーバーテイクを許し7番手でフィニッシュしましたが、この選手が走路外走行のペナルティを受けたため正式結果では順位が繰り上がり6位となりました。



【FIA-F4選手権シリーズ第13戦・レース結果】

#6木村 偉織 決勝4位（24分46秒361 ベストタイム 1分45秒315）
#5小出 峻 決勝6位（24分48秒486 ベストタイム 1分45秒465）
#7太田 格之進 決勝リタイア（0周）

■第14戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ



11月28日日曜の富士スピードウェイは、前日同様に快晴ながら冷え込みました。シリーズ最終戦、第14戦のフォーメーションラップは午前8時にスタート。2番手の選手は加速が鈍く、トップから19ポイント差のランキング3番手ながらシリーズチャンピオンの可能性を残す#6 木村が4番手からうまく加速し、2番手の選手と3番手の選手の間をすり抜けて2番手へ進出して1コーナーへ飛び込みました。また8番手スタートの#5 小出もうまくスタートして4番手に抜けだし、#7 太田は6番手で1コーナーを抜けました。ところが後続集団の中で混乱が発生し、1周目からセーフティーカーが導入されました。

レースは3周終了時点でリスタートしましたが、加速した#6 木村は、スタートライン手前で急に先頭車両と近づき追い抜く形になったのでアクセルを抜きポジションを戻したため、1コーナー手前で3番手、4番手、そして5番手の#5 小出に追いつかれ横一線に並んで1コーナーへ進入することとなりました。結局#6 木村は、3番手及び4番手の選手に先行を許し4番手へ後退しました。また、#7

レースは3周終了時点でリスタートしましたが、加速した#6 木村は、スタートライン手前で急に先頭車両と近づき追い抜く形になったのでアクセルを抜きポジションを戻したため、1コーナー手前で3番手、4番手、そして5番手の#5 小出に追いつかれ横一線に並んで1コーナーへ進入することとなりました。結局#6 木村は、3番手及び4番手の選手に先行を許し4番手へ後退しました。また、#7



太田はダンロップコーナーで#5 小出に追いついてオーバーテイク、5番手へ進出しました。

ところがこのリスタート時にも後方集団の中で混乱が起きたため再びセーフティーカーが導入され、7周終了時、8周目からリスタートしました。ところがリスタート後の1コーナーで先頭車両が減速しきれずラインを外した間に、2番手、3番手、そして4番手の#6 木村がオーバーテイクしてそれぞれ順位を上げました。こうしてチャンピオンの可能性を残す3人のドライバーがトップ3で戦う展開となりました。

5番手の#7 太田は、前を走るとライバル車がテールトゥノーズで4番手争いをしていましたが、9周目の1コーナーでこの2台の隙を突いて#5 小出が一気に2台を抜き去り4番手へ進出しました。10周目の1コーナーでは#7 太田がようやくライバル車をアウト側からオーバーテイクして#5 小出に続く5番手となり、HFDPの3車が3-4-5番手に続くこととなりました。さらに#7 太田は11周目の1コーナーでアウト側から#5 小出をオーバーテイク、ポジションを入れ替えました。

3番手の#6 木村は、前を走る2車がトップ争いをしている間に追いつき、テールトゥノーズにまで持ち込みますがストレートで引き離されオーバーテイクはできず、結局そのまま14周を走りきって3位でチェッカーフラッグを受けました。#7 太田は12周目、ファステストラップを記録して#6 木村を追走しましたが届かず4位、#5 小出はレース終盤に後続車に追いつかれオーバーテイクを許して8位でフィニッシュしました。このレースの結果、#6木村はシリーズポイントランキングでチャンピオンから26点差の3位、#7 太田は5位、#5 小出は6位と決まりました。またHFDPはチーム部門でチャンピオンと25点差の2位でシーズンを終えました。



【FIA-F4選手権シリーズ第14戦・レース結果】

#6木村 偉織 決勝3位 (30分18秒202 ベストタイム 1分45秒328)
#7太田 格之進 決勝4位 (30分18秒308 ベストタイム 1分45秒025)
#5小出 峻 決勝8位 (30分20秒566 ベストタイム 1分45秒546)

■2021FIA-F4選手権シリーズポイントドライバーランキング (2021シーズン第14戦終了時点)

3位 #6木村 偉織 191点 (トップと26点差)

5位 #7太田 格之進 150点

6位 #5小出 峻 124点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点)

■2021FIA-F4選手権シリーズポイントチームランキング (2021シーズン第14戦終了時点)

2位 HFDP 260点 (トップと25点差)

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP/SRS/コチラレーシング 小出 峻



今週はあともうひとつ、トップと闘うためには何かが足りないなという感じでした。ニュータイヤを使っているときの一発のペースに悩んでいるうちに、予選では予想していたライバルではない他のドライバーたちに前へ出られて順位が下がってしまいました。ユーズドタイヤでのペースはそう悪くはなかったし、うちのチームはレース強さが売りなので上がっていく

自信はありました。スタートもうまく決まって6番に上がったんですが、スタートで抜いた後ろのドライバーのペースが良くて何回も仕掛けられる形になり、最初はブロックしていたんですがブロックしすぎると前が離れてしまうので抜かせました。でも前に行ったドライバーもその前に追いついて抜くまでのペースではなくてそのまま終わってしまいました。第14戦は、スタートは自信があって、その通り1周目の1コーナーを過ぎたあたりで8番手から4番くらいに上がったまでは良かったのですが、前に追いついて仕掛けることはできず、セーフティーカーが出たこともあって後ろが近づいてきて、なんとか粘りたかったけど結局スタートした順位に戻ってしまいました。1年を振り返ると開幕戦などは調子も悪くなくていい感じだなと思ったんですがその後は1勝はしたものの、山あり谷ありのシーズンになってしまいました。今日のようなスタートとか序盤のペースとかいう点で自分は成長したと思いますが、前で闘うことができるようになった分、新しい課題も出てきたなという感じがします。



●ドライバーズコメント：#6 HFDP/SRS/コチラレーシング 木村 偉織



練習から調子が良くてポールは獲れると思っていましたが、富士ならオーバーテイクもできるしそんなに焦ってポールにこだわることもないなと思って気を楽にして予選を迎えました。でもおそらくは気温が予想以上に下がってタイヤの内圧が来なかったりしたせいか、予選では練習までとクルマのバランスがまったく変わってしまって、うまく行きませんでした。

それでもチャンスはあると思っていましたが、第13戦を走り出したらペースが上がらず、一方ライバルは非常に速くて、まったく太刀打ちできない状況になり、チャンピオン争いもあるから無理もできずちょっと我慢のレースになってしまいました。第14戦では、後半のペースは考えずにとにかく序盤にスパートして前へ出て、後は頑張って防ごうと思いスタートしました。それでうまく前には出られたんですけど、セーフティーカー後のリスタートで、スリップが通常考えられないほど利いて前へ出てしまいそうになったので引いたら順位を下げてしまい、もったいない展開になってしまいました。そこから冷静に立て直して1台パスしましたが、どうしても前の2台には追いつけませんでした。残念なのは、自分がスパートかけようと思っていた序盤の大部分がセーフティーカーランになってしまったことです。ついていけませんでしたが、でも今のクルマの状態、自分のドライビングの状態の中では100点満点のレースができたと思います。今まではこういう厳しい状況に入ったら立て直すことができないまま悪循環に入っていましたが、今回はしっかり結果を残すことができました。ライバルには対抗できないままチャンピオンを明け渡すというつらい展開でしたが、自分の中では成長を実感できたレースだったので、満足しています。この1年ものすごく成長できたと思います。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP/SRS/コチラレーシング 太田 格之進



テストまでは調子良かったのに土曜日の予選になったら急にペースが上がらなくなったように感じ、順位が低迷してしまいました。

第13戦ではクルマの感触は良かったのですが、横から当てられて終わってしまったのが残念です。クルマが結構壊れてしまいましたが、チームが完璧に直してくれ、第14戦ではクルマのフィーリングはまったく問題なくて

、チームには感謝しています。第14戦ではまずまずなスタートが切れ、レース中のペースも結構良くてファステストラップも獲って良いレースができました。でも正直なところセーフティーカーが長すぎました。あれがなければもっと前へ行けたと思います。でも結局は予選でもっと前に付けないとダメだなあと痛感するレースになりました。今年を振り返ると、2位には5回ほどなっていますが、優勝はできなかったことが心残りです。ランキングの面では、スポーツランドSUGOで予選に失敗したのが痛かったです。あのレースウィークに開催された3レースの結果が、ポイント争いに大きな影響を及ぼすことになってしまいました。いろんな性格のコースで安定して上位を争えたので強さを見せることはできたかなと思うんですが、やはり勝たないとダメだなと痛感しています。これは今後の課題にしたいと思います。

